

令和3年度 夢の島公園・夢の島熱帯植物館事業報告

夢の島公園・夢の島熱帯植物館

指定管理者：アメニス夢の島グループ

前館長 高橋 将

I. はじめに

令和3年度は、東京オリンピック・パラリンピック競技大会(以下、東京2020大会)が開催され、都立夢の島公園はアーチェリー競技の会場として使用された。開催前は大会組織委員会による競技施設の設置工事における定例会の出席や安全指導の他、セキュリティやスケジュールの確認など協議し、運営ルールに従い管理を行った。会期中も運営担当・警備担当と連携し、巡回強化や維持作業の要望に答え、世界が注目するスポーツの祭典は大きな事故も無く無事終了することができた。



写真1 アーチェリー競技会場

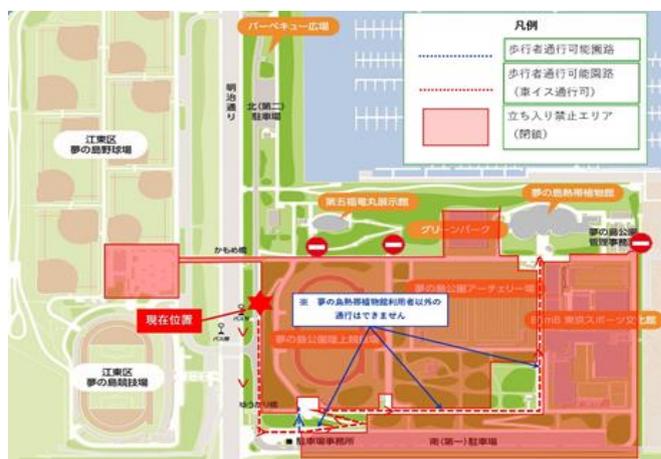
大会終了後は撤去工事や復旧工事が開始され、利用者への案内や動線の確保、園内の工事車両の安全走行など利用者の安全第一で施工するよう指導した。10月には予選会場として使用されたアーチェリー場が開放となった。アーチェリー場と連携した体験イベントを開催し、レガシー施設を活用した公園の新たな魅力を発信できた。

植物館では、感染症や大会による臨時休館(約6か月の休館)があったが、DXを活用したイベントや動画配信、さらにSNSを充実させ、コロナ禍で来館が困難な方にも楽しめる新たな施設利用を提供した。また、他施設でのアウトリーチ活動を行い、新たな利用者層を得たことや、大学と連携し、コロナ禍で困難となっている学生に発表の場を提供し、感謝の言葉を頂いている。

II. 夢の島公園

1 公園運営

前年度(令和2年度)末より再開された大会整備は、園路を閉鎖してのクレーン車設置やセキュリティエリアのフェンス工事、決勝会場の設置の他、電気や通信の工事も行われた。開催1ヵ月前からは、設置工事を行う大会組織委員会の整備担当に加え、運営担当や警備担当も常駐し、入園パスの発行や大会に向けた感染症対策、開催期間における運営管理の他、セキュリ



ティエリア外での車両走行についても協議した。



写真2 大会組織委員会と協議や打合せ



写真3 大会前 利用動線の樹木管理

6月中旬からはセキュリティが一段階上がり、一般来園者は入園できるものの公園入口は一カ所と制限された。バス停からの階段は閉鎖され、園内施設の第五福竜丸展示館からのアクセスもできなくなったため、園内各所に掲示看板を増設し、利用動線を示した。なお、警備担当とは、持ち込み品（維持管理用品含む）の調整などを重ね、職員と共有して入園制限期間に備えた。7月7日からは一般利用者は入園不可となり、植物館も休館となった。職員は入園のたびアクレディテーションパスの提示や荷物検査を受け、また、園内の移動も選手と距離を保って行動するなど大会運営ルールに従った。さらに会期中は、園内の植物館敷地前にもセキュリティのフェンスが立ち、植物館内への立ち入りも警備のチェックを受けて入館した。植物館などの設備点検や定期作業があるが、会期中は車両許可台数が限定されたため、事前に作業や点検項目を精査し、可能な範囲内で会期前後の計画にするなど大会運営に支障が無いよう協力した。



写真4 入園パス（身分証明）検温・荷物検査



維持管理では、大会のために新たな作業となった会場清掃業務の他、組織委員会と連携した巡回を強化し、風揺れによる防犯センサー発報対応（剪定作業）やスズメバチの巣の撤去など、セキュリティにより入園できる業者が限られる中（事前登録外の入園は不可）、時に職員自ら運営側の要望に応じていった。台風の接近や選手の熱中症、選手移動バスの接触事故などはあったが、大きな問題はなく無事終了した。



写真6 会場清掃業務や巡回を強化
作業個所の変更など臨機に対応



写真7 突発的な案件は職員が対応
(ハチの巣除去など)

東京 2020 大会後は、入園不可期間も終了し、それまで不可だった自転車の通行や宅配業者が入れるようになった。大会組織委員会とは、復旧スケジュールを打合せ、東京都建設局と共に施設不具合個所の確認を行い、特に大型車両が走行したことによる舗装の段差や芝生地の復旧を立ち会った。復旧工事が進んでいくにつれて開放区域が広がったが、工事後の未整地や通行車両の安全指導を徹底した。11月には南側（第一）駐車場が、12月にはグリーンパーク（植物館横芝生地）が復旧工事を終え、3月末までには決勝会場となった陸上競技場や園路の段差などの復旧が終了した。



写真8 復旧工事定例会

公園をご利用のお客様へ
宴会自粛のお願い

夢の島内では、密集・密接を避け、マスク公園の着用をお願いいたします。

また、園内での宴会利用などの飲酒・飲食はお控えいただき、大人数での長時間のご利用はご遠慮ください。

感染症のまん延防止に、ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

夢の島公園管理事務所

なお、利用者への感染症対策は継続しており、園内アナウンスによる注意喚起の継続の他、大会により使用停止となっていた BBQ 利用は利用人数を制限しつつも 11 月から再開とし、1 月にまん延防止等重点措置が発令された後は、利用停止、園内での飲酒なども自粛して頂いた。



写真9 利用者第一での安全管理を指導

2 公園維持管理作業

令和3年度は夏期に東京2020大会が開催されたため、前年度計画した5ヵ年計画をもとに植栽管理作業の実施検討を行った。大会組織委員会との打合せ内容も含めた検討の結果、レジリエンス（災害対応能力）の高い公園づくりの達成のため、作業エリアと作業方法を変更し、東京2020大会での選手・関係者・観客導線を重点的に行う計画を策定した。

大会期間中は、大会関係者と連絡を密にとり、気象情報から園内で起こりうる災害リスクを共有し

た。また状況に応じて倒木等の処理を迅速に行える体制を整え、主要動線上や園内広範囲で樹木管理を行い、「安心・安全・快適」な状態で大会開催を迎えることができた。さらに、隣接する緑道でも被害が確認された「ナラ枯れ」の対策では、優先度をつけ、決勝会場となるメイン園路沿いの樹木薬液樹幹注入作業を実施。この結果、大会期間中の被害発生は無く、防除対策の効果が伺えた。会期中は大会スケジュールを鑑みた臨機応変な作業により円滑に大会が運営されるよう維持管理を行い、安全な大会開催へ寄与することができた。なお、大会前に大径木管理を先行して実施することで、大会期間中の災害被害をゼロに抑えることができた。

その他、樹木診断結果をもとに倒木のリスクのあるスロープ沿いエリアの剪定を実施した。高所作業車の使用が困難な樹林地内は、高所ロープを用いて樹木医の資格を持つ技術者が作業を行い、適正な管理を遂行した。

施設管理では、大会関係工事と調整を図り、不要公園灯の撤去や車止めの交換などを実施。また、大雨などの自然災害への備え、排水改善を行い、快適な施設利用に繋げている。



写真10 ナラ枯れ対策



写真11 ユーカリ樹高低減作業（ロープワーク）



写真12 排水樹清掃

職員教育では、特に事故の多い草刈り作業において、職員や委託業者を集めた講習会を開催。近年の事故の傾向や事例、また、様々な機器の使い比べを委託業者とともに実践。新たな装備が加わった機械の紹介など、講習会により安全意識の向上の他、新機種の導入による事故防止に取り組んだ。



写真 13・14 安全講習会

また、防災訓練は、公園・植物館・アーチェリー場と連携して実施。自衛消防隊を設置し、各担当が避難誘導。アーチェリー場を最終避難所として消火訓練を実施した。また、園内の防災施設点検や災害対応トイレの設置訓練を行い、発災時に備え、利用者への安全・安心への取り組みを行った。



写真 15 防災トイレ設置訓練



写真 16 避難訓練、消火訓練

3 公園利用促進事業

東京 2020 大会関連で、閉鎖区域の拡大により利用できる広場も減少し、また、会期中 2 ヶ月間は公園主要個所への入園もできなくなった。大会終了後も撤去工事等が行われ少しずつ園路などは開放されたが、決勝会場（競技場）の現状復旧工事などは年度末まで行われたため、工事関係の大型車両などの通行がある中での利用開始となった。さらに、感染症に留意しながらの運営も継続となり、団体利用や学生の受入れも自粛や縮小した。

そのような中、秋には、先に開放となったアーチェリー場のオープニングイベントに、公園事業としてミニアーチェリー体験会を隣接する江東区陸上競技場と連携して開催。参加した児童のみならず、保

護者も楽しんで頂くなど、大会により利用制限のあった公園で、レガシー施設を活用し公園の魅力を発信し、久しぶりに広い広場を楽しまれる姿が見られた。また、「アーチェリー場をどのように活用できるだろうか」をテーマに大学生が描いた企画を展示した企画展を開催。学生らしい視点は観覧者にも好評で、施設を通じて夢の島公園の認知度や魅力の向上に繋がった。

なお、ボランティア活動では、夏の大会を草花で彩り日本のみならず海外の方たちをもてなすことを目的に植付イベントや勉強会を実施してきた夏花（夏に強い花・夏によく咲く花）の植付を実施。セキュリティの関係で観戦者の動線などの情報を得られない中、大会組織委員会と打合せを重ね、選手やスタッフなど国内外の方々を目につく場所に花壇を設置し、公園管理者として、おもてなしを行った。会場工事ばかりが目立つ公園の中で、来園者の憩いの場となったこの夏花花壇は今後、大会のレガシーとしてさらに発展させていく予定である。



写真17 ミニアーチERY体験を開催（公園事業）

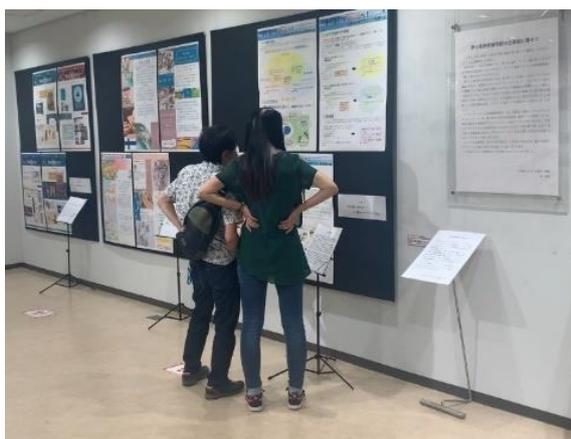


写真18 公園活用アイデア大発表企画展



写真19 夏花花壇（協働作業）

また、社会も自粛となる事業も多い中、都内の中学校も自ら出向いて課題解決学習に取り組めない時期に、ON-LINEでの講義依頼を受諾。リモートで学校と継ぎ、夢の島の歴史に関する講義を行い、コロナ禍において体験的な学びの場を提供した。

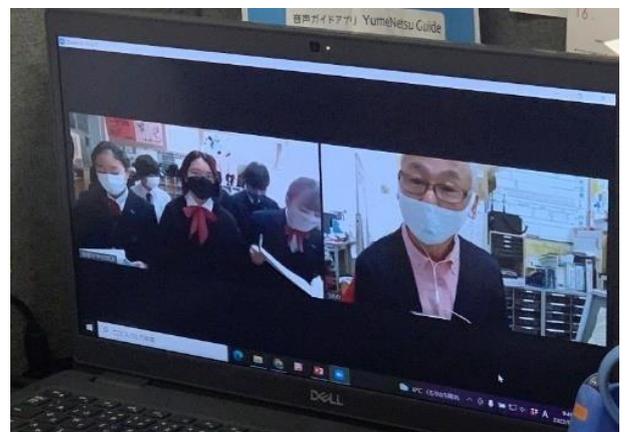


写真20 ON-LINE 授業

最近の課題はどのようなものか

- 情報発信【ICT（インターネット・コミュニケーション・テクノロジー）公式サイト】の改訂・ゆめねつチャンネル・Twitter・Instagram・Facebookの特性を踏まえたパーソナリティ別の情報発信。
- デジタルサイネージの活用
- 災害時対策「見ごろの花」オンラインイベント・ガイダンス（「夢の島清掃工場案内図」）
- オンラインイベント
- オンライン開催（ZOOM・YouTube・ZOOM連携）へ承実施
- 予約システムの活用
- 入場予約・880予約・観覧券・エタラジを活用した売店

【ICT（インターネット）・オンライン（ローカル含む）】に接続し

コロナ禍に於ける対応策

ゆめねつチャンネル

平日の投稿 3272

平日の投稿 3272

平日の投稿 3272

SDGsへの取り組み

SDGs（Sustainable Development Goals）とは、2016年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標」のことで、世界の課題を解決し、持続可能な社会を実現するための目標です。

17の目標を達成するために、夢の島公園では、SDGsの達成に貢献しています。

目標1 貧困をなくそう	目標2 飢餓をゼロに	目標3 健康と長寿を促す	目標4 質の高い教育をみんなに	目標5 ジェンダー平等を実現しよう
目標6 安全な水とトイレを世界中に	目標7 持続可能なエネルギー	目標8 働きがい、経済成長、雇用	目標9 産業とイノベーションに力をかかそう	目標10 人や国を問わずに豊かになろう
目標11 住み続けられるまちづくりを	目標12 つぶやみ・資源循環	目標13 気候変動に具体的な対策を	目標14 海の豊かさを守ろう	目標15 陸の豊かさも守ろう

Ⅲ. 夢の島熱帯植物館

1 植物館利用と入館者数

植物館は、年度当初から6月4日まで、緊急事態宣言に伴う臨時休館となり、7月7日からは公園で東京2020大会によるセキュリティ強化入園不可期間のため9月6日まで休館となった。再開館後も1月11日からは第6波感染拡大対策として3月21日まで休館。結果的に年間140日の開館となった。大会が終了した9月からの再開館では、入館予約システムを導入し、入館上限設定に従って運営した。10月にはご来館頂きながら、やむなくご予約のない方をお断りしなければならない事態もあった。また、企画展は実施できたものの、イベントの自粛、ボランティアガイドなどを休止の他、幼稚園や学校関係の団体の受付も休止した。夏期は東京2020大会開催で、入園不可期間前後はバンプアウト期間（6/14-7/6、9/7-12）として、公園に入園できるものの入口が1ヵ箇所のみとしたため、利用できる北側駐車場やバス利用者にとっては遠回りとなり、植物館までに時間を要することで来館を控える方も多かった。前年も感染症対策として約5ヵ月休館（180日の開館）したが、今年度は、東京2020大会期間の休館を含め140日間閉館したが、入館者数はここ数年と比較しても大きく上回る結果となった。

その他、感染症対策は継続。コロナ対策リーダーの受講（カフェ）や新たに可動式授乳室の設置、カフェ・売店のキャッシュレス化など快適な利用の提供を行った。また、前述した「予約システム」は、ご利用者からは好評をいただき、コロナ禍に於いて「安全・安心」に繋がった。（3月から滞留式管理方式に変更し運営を再開。）感染症による臨時休館、公園での東京2020大会の開催により、例年とは異なる運営となったが、DXを活用した運営や広報を積極的に取り入れ、利用者目線で楽しめる工夫や癒しの空間の提供、さらに環境問題の提言を含めた教育機関として、魅力ある施設運営を図った。



写真 21 モニターを使用したガイダンス



写真 22 コロナ対策リーダー動画視聴



写真 23 可動式授乳室設置

2 植物館維持管理

昨年度、温室上部のガラスに接触するほど生育したヤシを伐採したが、継続してその他のヤシ類などを含め、大型樹木に対して定期的な樹木点検を実施した。また、株が成長したオウギバショウモドキの整理（間引きなど）や固結した土壌のエアレーション作業などを実施した。さらに景観が一時的に大きく変わる作業（強剪定や草本整理、新規植え付けのための伐根・除草等）は臨時休館中を利用した。なお、伐採したヤシは、前庭芝生地に展示した他、動画で作業風景を配信し、来館者に管理の重要性を知って頂く機会にも繋がったと考える。

植物は、特にイベントホールやエントランスの観葉鉢物の状態が良くなり、景観が向上した。栽培温室で開花し、エントランスで展示する植物の種類が増え、ガーデニア・タヒテンシスやストロファンツス・プレウシイ等熱帯らしい花を展示できる回数が増え、来館者に喜ばれた。

臨時休館中は展示する機会はなかったが、再開館後に栽培温室で保有しているラン類の開花が増え、エントランスやイベントホールに常時数種類の鉢を展示でき、珍しいランの紹介ができた。エントランスに常設している小笠原コーナーの小笠原関連の植物の花も絶えず咲き、エントランスに滞在されてご覧



写真 24 ロープワークによる
高性ヤシの手入れ

になっている方が多かった。植物展示鉢は、季節の企画展に合わせて小まめに入替えを行い、「小笠原諸島展」では栽培温室の鉢を移動して解説文とともに展示するなど、保有する固有種を紹介し、施設の魅力向上に繋がった。なお、公式 HP の開花情報文にて植物の情報を「本日のスタッフのおすすめ」として発信。臨時休館中は、毎日更新した。紹介した植物を御覧になるのを目的に来館されたり、電話での問い合わせがある等、反響があった。東京 2020 大会開催中の臨時休館時には、夜間開館が開催できなかったことから、「夜も楽しめる植物編」として夜咲く、夜香る植物を紹介し、夜間開館の雰囲気を楽しんでいただいた。ハロウィン時期には、館で保有している中で、オバケやコウモリなど関連したものの名前を持っていたり、怖いエピソードを持つ植物を展示。さらに、企画展「熱帯のクリスマス展」も反響が大きく、正月の「干支の植物展」では、毎年楽しみしているというお客様の声に応えることができた。



写真 25 本日のスタッフおすすめ
(みごろの花情報)

トピックとしては、日本植物園協会を通じて、閉館する渋谷区ふれあい植物センターの植物譲渡について手を挙げた。実地で見学し検討を行い、51種を選定し申請した。1月および2月に植物の引き取りを行い、大温室に6種、ハーブ園に5種、北側花壇に3種を植え付けた。その他は適宜植え替えを行い、イベントホールや食虫植物温室に展示した。大型のリュウケツジュは鉢に植付けイベントホールに設置。新たな見所を創出した。渋谷区ふれあい植物センターでは、Twitterで当館の宣伝をしていただき、連携をとることができた。

その他、日本植物園協会が毎年発行している日本植物園協会誌（第56号）に当館の施設や作業紹介を寄稿。全国に設置されている植物園に施設や作業について詳しく知って頂き、各園との連携も深まることとなった。また、初めて実施された全国の植物園の施設を動画で紹介する「オンラインツアー」に参加。施設紹介の動画を提供した。動画は、日本植物園協会のYouTubeチャンネルで配信され、NHKテキスト「趣味の園芸」などでもご紹介いただけて、コロナ禍で施設利用が減少した全国の植物園の普及啓発となった。

施設設備管理では、植物館開館から30年以上が経過し老朽化が進む一方、キャッシュレス発券機など新たに導入した設備もあり、老朽化した施設設備の更新、不具合個所の修繕の他、新しい設備の環境整備（例えば券売所のオーニング設置など）を実施。計画していた大規模改修が延期となった事から、老朽化による不具合箇所（温水漏水などの対応も含



写真 26 植物の譲渡（新たな見所の創出）



写真 27 発券機オーニング設置



写真 28 老朽化した配管の交換(地下ピット内)



写真 29 栽培温室カーテン交換

む) や施設の長寿命化に向けた部材交換、施設の改善への協議を行い、維持修繕による施設の快適な環境改善を図り、施設の長寿命化、施設の機能の維持、安全性の向上、美観の向上に繋がった。なお、老朽化による突発的な設備の不具合(温水の漏水など)が発生した際は、優先順位を高めて迅速に対応したことで、熱帯植物などへの影響を最小限で抑えることができた。このように、耐用年数・経年劣化・利用者の満足度と現状を照らし合わせ、補修・修繕工事、緊急対応経費工事はそれぞれの規模・緊急性等にて適切に仕分け対応できた。

職員教育では、感染症拡大防止の為、外部研修や講座への参加は控え、館内会議で他施設の良い事例や苦情、事故事例の共有、安全衛生推進会議の内容の共有を行った。また、本部の研修はLive配信やeラーニングを活用。接遇や安全、個人情報保護法などの研修を行い、コロナ禍でも質の高い研修となった。さらに、安全パトロールや避難訓練の他、植物館で飼育しているミツバチの指導を頂いている養蜂家に依頼し「スズメバチの安全対策講習会」を実施した。蜂に詳しい養蜂家の体験談や映像なども含めた講話によりスタッフ全員が身近な脅威として刺傷の対処を職員全員で共有した。大会による立ち入り制限などでハチの巣の発見が遅れ、例年以上に被害も増える中、有効な講習となった。



写真 30 避難訓練



写真 31 養蜂家によるハチ講習

3 植物館利用促進事業

先に記した通り、令和3年度も休館が多い年となった。前年度開始した公式HPの「バーチャル植物館(VR)」は、ご来館頂けない中、居ながらにして植物館を楽しめるコンテンツとして人気で、団体利用や撮影利用の方が植物館内部を見るため非常に便利であると施設のPRとしても有効だった。令和3年度も施設の新しい取り組みでYouTube「ゆめねつチャンネル」を開設。子供でも理解しやすいコンテンツ「さよならダイオウヤシ」「植物館紹介」とし、「みごろの花」情報は大人でも楽しめる落ち着いた内容とするなど、動画作成に



写真 32 YouTube ゆめねつチャンネル



LINE(リッチメニュー追加) Twitter(令和3年6月開始) Instagram(ストーリーの活用)

写真 33 SNSによる広報強化

も視聴層の幅を広げる工夫を凝らした。動画を見たことで来館頂いた方もおり、新しい取り組みを提供できた。そして新たな SNS として Twitter も開始。従来から運用していた Instagram と相互に連携しながら、「SNS Link ポータル」を介し、これまであまり植物に親しみのなかった世代やコミュニティーにまで来館促進を行った。9 月には ZOOM を使った「ONLINE 夜間開館」をライブで配信。さらに、2 月の休館中には「ゆめねつ LIVE オンラインツアー」を配信。利用者と双方向なバーチャル開館を開催した。若い世代には自身のフォロワーと共に ONLINE 開館を楽しんでいただき、60 代 70 代の女性の方や、北海道や秋田・広島・京都など遠方の方からもご参加をいただくまでとなった。

コロナ禍でも動画配信や SNS、ONLINE で植物館を楽しんでいただき、物理的に来館できない方々にも時間と情報を共有いただける対策を実施した。なお、ガイドボランティアは管内でのガイドツアーができなくなり、ほとんどの活動が停止していたが、リモートで音声データを提供していただき植物館で動画と合成し、オンラインツアーなどで披露し YouTube のゆめねつチャンネルに期間限定で解説動画を公開



ON-LINE 夜間開館 (9 月)



ON-LINE ガイドツアー (2 月)

写真 34・35 休館中の取り組み

した。また、同動画を利用し、ドーム内でアプリやコンテンツのダウンロードなしで解説を聞ける QR コードを設置し、夜しか咲かない花、1日の中で色が変わる花、夜動く花・葉などを、異なる季節や日中でもその場で映像を楽しめるバーチャルガイドとして実施することができた。こういった積み重ねによって、これまで当館の存在さえも知ることのなかったあらゆる年代層に情報提供を行い、来館数の拡大につなげることができたと考える。



ぬいぐるみおとまり会



亀戸中央公園

写真 36 休館中の取り組み (アウトリーチ)

東京 2020 大会による休館時期は、施設から飛び出したアウトリーチを実施。他施設と連携し「ぬいぐるみおとまり会」を企画。当社グループで指定管理をしている施設を受付場所とし、さながらぬいぐるみを夢の島熱帯植物館へ旅に出すツアーデスクのかたちで受付を設けた。施設受付は当館近隣の都立猿江恩賜公園、都立亀戸中央公園の管理事務所とやや遠距離でありながら公共交通機関 1 路線で当館へ来館できる埼玉県三郷市ピアラシテイ交流センター、豊島区立イケサンパークとし、来館の可能性のあるエリアのニーズを測ることのできる場所をセレクトした。予約開始日の翌日には各施設共満席となり、その後も問い合わせが相次いだ。お預かり中に植物館でぬいぐるみが過ごしている様子を写真に撮り、アルバムにして返却。ぬいぐるみと離れることでお子様の独立心を図り、親子の会話を増やすことがで



写真 37 大学連携による企画展



写真 38 アフリカのヴィルンガ国立公園と ZOOM をつないで講演会を開催

きたと好評を頂いた。また写真を持って帰ってきたぬいぐるみの写真と同じ場所へ行き、植物を觀賞し
たくなるというご感想も多く、大会により、人の出入りが制限された時期に施設の認知向上と再開館後
の新規来館者の開拓に繋がった。

企画展でのトピックとして、世界に関連した企画展示として「あつまれ！熱帯探検隊！」を慶應義塾
大学アフリカ研究会と連携し実施。熱帯地域を中心とした地域の植物や動物の生態系について、学生の
柔軟な考えと行動を取り入れ、熱帯であるアフリカでどのような生き物や植物が生息しているか子供か
ら大人まで楽しめる企画で、展示パネルが大学生らしいデザイン性だったことも起因し、パネルや標本
のキャプションに足を止める方が多かった。子供向けには塗り絵・折り紙コーナー、絵本コーナーを設
置。週末には映像ホールを使用し、ゴリラの保護活動等を行っているアフリカのヴィルンガ財団の方と
ZOOMによりライブでやり取りするなど新しい手法も取り入れた。植物館にはじめて来館したという方も
多く、イベント後にはドーム内などを散策いただき新規の獲得に繋がった。また、コロナ禍で活動は
もとより発表の場を大きく制限されている学生達から、「今回の施設利用は有益となった。」と感謝の言
葉を頂いている。

その他、従来企画展も継続し、年間学習のテーマのミツバチ展では、採蜜体験の他、ハチミツをオ
リジナル商品として販売を開始。企画展の観覧前後に購入される方も多く、企画展を通じて植物館がミ
ツバチと関係していることも伝えられ、ご来館頂いた思い出の品として、とても人気の商品となった。



写真 39 年間学習テーマ ミツバチ展



写真 40 オリジナル新商品として販売

IV. さいごに

令和 3 年度は東京 2020 大会の開催と感染症拡大にともなう休館が半年以上もあり、ご来場の機会が
失われた年だった。そこで YouTube や SNS、ON-LINE イベントなど、映像などを駆使し、外出自粛中
は家から、そうでなくても全国どこからでも楽しめる新たな施設利用の方法を模索した一年となった。
新たな企画はとても好評を頂いており、施設の認知度も向上していると感じている。まだまだ感染症に
は留意が必要だが、今後も安全・安心に楽しめる施設を目指していく。